

様式 2

平成 29 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立岩美高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実」に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。	今年度の 重点目標	1 キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。 2 部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。 3 多様な生徒に対して、一人ひとりが大切にされていると実感させる。 4 生徒の主体的な学びに喜びを見出し、解決する力、伝える力を身につけさせる。 5 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実に努める。
-------------------	---	--------------	--

年 度 当 初				評 価 結 果 (2)月				
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
1 進路指導の充実	○進路実現のため の系統的な指導方法の充実	○ここ5年間進路実現100%が続いており、指導方法が確立・定着しつつあるが、より質の高い進路実現を追究していくべく、第1志望を実現させる果敢な指導が求められる。	○適切な時期に進路学習が行われ、進路実現に結びついている。 ○進路実現100%、また、第1志望での合格内定率が90%達成。 ○2年次末までの進路希望未決定者10%以下。	○進路面談や進路学習を学年との連携により強化し、3年間を見通した系統的な指導方法へ深化させる。 ○全職員による懇切丁寧な面接等の実施。 ○進学希望者への指導内容を研究し、指導体制を確立する。	○評価アンケートで、進路指導は充実している(保護者)、進路決定に役立っている(生徒)が8割で、3年間を見通した系統的指導の成果が表れている。 ○3年生の進路実現100%を達成、そのうち第1志望での合格・内定率は90%を超えた。 ○2年生の1月末時点での進路希望未決定者は約5%であった。 ○進学希望者の学力向上対策としての進学対策補習や地元国公立大合格プロジェクト、さらにセンター試験への果敢なチャレンジなど個に応じた学習指導体制が少しずつではあるが確立しつつある。	B	効果のある取り組みは継続した上で、生徒個々の進路希望に柔軟に対応し、より質の高い進路実現ができるよう指導体制の充実に図る。	
	2 生徒指導の充実	○基本的 生活習慣とマナーの定着	○服装頭髪再検査者数は前年に比べやや増加傾向である。再検査者数は1クラス平均10人である。	○挨拶、返事、服装等のマナーと基本的生活習慣が身に付いており規範意識を持っている。 ○再検査者数は1クラス平均5人以内になっている。	○全校朝会や服装頭髪検査の実施による校則の徹底指導と、全職員による日常的なきめ細やかな指導を充実させる。 ○家庭との連携を密にとり、生活環境を整える。	○頭髪服装再検査者数は、月によってまちまちではあるが、クラス平均5人以内は達成できていない。頭髪については軽微な違反がほとんどであり、細かく指導していただいた結果と受け止めている。 ○個別に対応している生徒の生活状況について他学年の生徒・保護者から苦情を受けることがあり、学校内での共通認識が不十分であった。	C	○頭髪服装検査で不合格が続く生徒の指導を徹底する。 ○基準を明確に示し、特に新入生の頭髪服装指導を徹底する。
		○豊かな人間関係づくりの推進	○メール・LINE等による友人とのやり取りで小さなトラブルが起き、不安感等を感じる生徒がいる。	○携帯電話等に頼らず自分で考え、直接話をすることの重要性を知っている。 ○携帯電話等の使用マナーが身についている。	○生徒会主催の情報モラル研修会等の取組を充実させる。 ○岩美高生としての自覚や誇りを持てるよう学校祭その他の行事を企画する。	○1年生で入学前に生徒会主催のケータイ・インターネットマナー研修会、5月には全学年対象に情報モラル講演会を実施した。メール・LINE等による大きなトラブルは発生していないが、外部も含めた様々な人と繋がりを持つ生徒も多い。トラブル防止のためにも使用時のマナーを今後も継続して指導していく必要がある。 ○休憩時のスマホ使用が多く報告されている。マナーに関して様々な場面で指導する。 ○いじめの報告は無く人間関係づくりがうまくいっていると推測される。	C	○引き続き生徒会主催のケータイ・インターネットマナー研修会等の指導を継続して実施する。 ○携帯使用のマナーを徹底するとともに、休憩時間中の巡視等も行っていく。
3 保健・人権教育の充実	○生徒会活動の充実	○部活動に所属していない生徒が若干名となっている。全員加入に向けての指導が必要である。	○部活動全員加入を継続し部活動をとおり忍耐力や礼儀の向上につながっている。 ○生徒の自主的なボランティア活動や美化活動が行われている。	○部活動加入指導を徹底する。 ○生徒主体のボランティア活動や美化活動を推進する。	○部活動加入率は全校で99.3%であった。(未加入者は1年0人、2年1人) ○女子バレーボール部・ウエイトリフティング部・吹奏楽部が全国大会出場を成し遂げ、その他運動部、文化部ともに活気ある活動が行われた。 ○関係機関と連携したボランティア活動に積極的に参加した。 ○生徒会主催で昼休憩の校内放送等新しい試みにチャレンジする姿が見られた。	B	○目標はほぼ達成した。未加入の1人への指導を継続したい。	
	○個を大切に した教育環境の改善	○生活満足度アンケート結果では、自分に自信が持てない傾向にあり、生徒の自己肯定感を高める必要がある。 ○授業および教育環境のユニバーサルデザイン化(UD化)が進みつつある。	○生徒にとって学校が居心地のよい場所であり、大切にされていると実感できる。 ○学校評価生徒アンケートで、UD化に関する質問への肯定回答が80%以上を達成する。	○生徒の自己理解・他者理解を促し、自己肯定感が高まるような取組を工夫する。 ○岩美高版UD等チェックリスト(仮称)を作成・活用し、UD化や効果的な指導・支援を進める。	○年間を通じて、生徒観察、個人面談や個別学習指導、保護者や関係機関との連携等に努め、個に応じたサポートに取り組んだ。特に高校生活に不慣れな1学年では、仲間づくりのためのLHRを適宜実施した。また「学校に行きたくない」としばしば感じている生徒は全校で12.5%いるが不登校は未然防止できている。 ○評価アンケートの生徒の評価では「授業に集中しやすい環境」が82.3%、「自分の意見や考えを発表する機会あり」が80.9%、「授業のねらいと板書内容が明確」は81.4%の肯定回答があった。「絵や写真等でわかりやすい」は中間評価より1割程増加し70.9%となった。また、保護者の84.1%が「一人一人を大切にしたい指導やわかりやすい授業が行われている」と回答している。 ○岩美高版UDチェックリストを用い教職員個々でセルフチェックを行っている。	B	○生徒の自己理解・他者理解を促す取組を実施する。 ○教職員に向けたより等、生徒の自己肯定感を高めるヒントについて引き続き情報発信する。 ○岩美高版UDチェックリストを用い、教職員各自が取組を振り返ったり改善を工夫する。	

平成 29 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立岩美高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実」に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。	今年度の 重点目標	1 キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。 2 部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。 3 多様な生徒に対して、一人ひとりが大切にされていると実感させる。 4 生徒の主体的な学びに喜びを見出し、解決する力、伝える力を身につけさせる。 5 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実に努める。
-------------------	---	--------------	--

年 度 当 初				評 価 結 果 (2)月		
評価項目	評価の具体項目	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価 改善方策
4 学 習 指 導 の 充 実	○基礎学 力の向上	○イワッツ検定全教科の初級合格 率は1年末で18%、2年末71%で あった。3年末100%は達成してい る。 ○家庭学習時間は平日で1日平均 65分、30分未満の者が31%であ る。家庭学習が習慣化する必要 がある。	○イワッツ検定全教科の初級合格 率を1年末で40%、2年末で70%、3年 末で100%を達成する。 ○平日において1日1時間以上の家 庭学習が習慣化され、特に、30分 未満の者が30%未満を達成する。	○イワッツ検定合格率が向上するよう、教科 と学年団で実状を共有し連携して補習等に 取り組む。 ○家庭学習時間が少ない生徒に対して学年 団で面談指導を実施する。	○イワッツ検定全教科の初級合格率は1年末で28%、2年末で41% であり目標値を達成できなかったが、3年末では100%に到達でき た。1年生のリスタート学習の取り組みは、ある程度の成果を得ているも のの夏季冬季休業中の1・2年基礎学力強化補習の実施が基礎学力の定 着に繋がっていない。 ○平常時(4・8・10月)の家庭学習時間の平均は50分、30分未 満の生徒は平均で35%であり目標値の達成ができなかった。10月調 査の結果が昨年より向上し保護者によるアンケート調査で「毎日1時間 以上できている」に肯定的な評価が33%であることより習慣化の雰囲気 はできつつある。	C ○特に、2年生において日常 的な基礎学力の定着を図る取 組みを実施する。 ○「家庭生活調査」の事後指 導等を継続的に実施してい く。
	○学習指 導の改善	○生徒の実態を踏まえた授業の 工夫がなされているが、苦手意 識がぬぐいきれず一層の学ぶ意 欲が求められる。	○生徒が主体的に学ぶことに喜び を見出し、解決する力、伝える力 が身につけている。	○教室のUD化を促進し、AI等の校内研修会、 公開授業月間を実施し、他校の研究授業等へ の参観を行う。 ○全ての生徒に分かり易く、学ぶ意欲が向上 する授業を研究し共有化を図る。	○年度当初に教室のUD化を図り、公開授業月間の取り組みを実施したこ とにより、職員の授業の改善や工夫は、昨年より6ポイント程度増加し て90%台に達した。また、授業と教育環境のUD化については、昨年 と同程度の80%台を維持し、UD化の意識が浸透しつつある。 ○生徒の授業に対する項目についての観点評価は、昨年より低下してい るものの肯定的な評価が概ね80%台を維持している。また、12月期 の授業アンケートの結果では、生徒の学習活動の状況(教材を授業前に 整え、板書のノート書き)等が良好であり、だいたい主体的な姿勢で学 習活動に取り組んでいることが伺えている。	B ○授業参観の促進や授業研修 会の充実を図り、校内の学習 指導改善の体制作りを進め る。 ○授業アンケートの結果を踏 まえて生徒の視点から学習指 導を行い、生徒の主体的な学 びの維持を図る。
5 開 か れ た 学 校 づ く り の 充 実	○地域と 連携した 学校づく りの推進	○研究開発学校の実践を継承す る「イワッツ・ミッション」を開 始した。 ○体育・福祉の授業や部活動で 地域との交流が行われている。 ○「イワッツ・ミッション」を核 として地域と連携した人材育成 のしくみを確立させる必要があ る。	○生徒が、地域と連携し地域に貢 献する活動に意欲的に取り組んで いる。 ○感謝と支え合いの心を持って、 地域に貢献していこうとする精神 が育っている。	○研究開発学校の実践の蓄積を生かしつつ 地域連携をより深められるよう「イワッツ・ ミッション」を工夫する(活動内容の充 実・授業時間数の確保・学校設定科目化の 検討)。 ○校外での発表や他校との交流の機会を設 ける(村岡高・鳥取中央育英高・室戸高・ 神大附属校・環境大等)	○第2学年でイワッツ・ミッションを実施した。講師(地域の協力者)や T A(環境大生)の協力を得て、地域と連携し、地域に貢献する活動を 実践した。活動を実践することにより、生徒の成長を促すとともに、生 徒自らが将来の地域を支える存在であることを自覚させることができ た。 ○イワッツ・ミッションで顕著な成果をあげた班の代表の生徒を地域創造 ハイスクールサミット(1月26日、鳥取中央育英高)と高知・室戸高の発 表会(2月2日)に参加させた。室戸高の発表会への参加は、世界ジオ パークに位置し、地域との連携を深めた教育活動を展開している室戸高 と本校との新たな交流事業のスタートとなった。	B ○イワッツ・ミッションにつ いて講師、担当教員との協議 を重ね、活動内容を充実させ ると同時に授業時間を確保し ていきたい。 ○第1学年のジオ学習の成果 を生かした取組を検討してい く。 ○地域連携重点校としての本 校の体制を確立していく。

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: 変化の兆し D: まだ不十分 E: 目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]